

＜中部本部化学部会のご紹介 ～技術士のさらなる活性化と評価度の向上～＞

池田 和人 技術士（化学・総合技術監理）



1. はじめに

中部本部化学部会で代表幹事を務めさせていただいております池田和人と申します。当会の運営にあたり、これまでの皆様方からのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

本稿では、当会が目指すべき理想論を交えながら、当会を紹介させていただきます。本稿により、部門を超えた多くの皆様方に当会を知っていただければ幸いです。

さて、私事で大変恐縮でございますが、私は技術士として早 11 年目を迎えようとしています。私は、技術士会というコミュニティに参加することができ、本当に良かったと思っています。技術士会は、利害や束縛がない自由で気楽なコミュニティでございますし、技術士会には幅広い分野から深い専門と広い雑学を備えた多くの老壮青が集います。また、様々な分野のご講演を比較的容易に拝聴することができますし、自らの講演の機会を得ることもできます。私は、技術士会の皆様方から多くの事を学ぶことができました。講演会を企画していくためには、技術士会の良い側面だけを考慮すればよいわけではございませんが、今後も、微力ながら、技術士会の利点を活かした魅力ある講演会を可能な限り提供して参りたいと考えています。

2. 中部本部化学部会の概要

中部本部化学部会は、中部本部の組織上、化学・金属・繊維部門の会員が属する部会でございます。2020 年 7 月時点の会員数のデータによりますと、中部本部の正会員・準会員 1610 名のうち、およそ 12 人にお一人が当会に属するという計算になります。現在、私を含め 6 名の幹事により運営させていただいております。コロナ禍で講演会の中止や延期を余儀なくされました昨年は別としまして、これまで講演会を年 4 回企画して参りました。当会の講演会の参加人数は、昨年のウェブ講演会で 41 名という実績がございますが、一昨年の対面講演会の実績では、講演会 1 回あたりの参加者が、講師を含め 21～24 名でございました。この参加人数は、これまで対面講演会で利用して参りました中部本部会議室の席数 30 席に対し 7～8 割程度でございます。

3. 素材の世界と当会が目指すべき方向

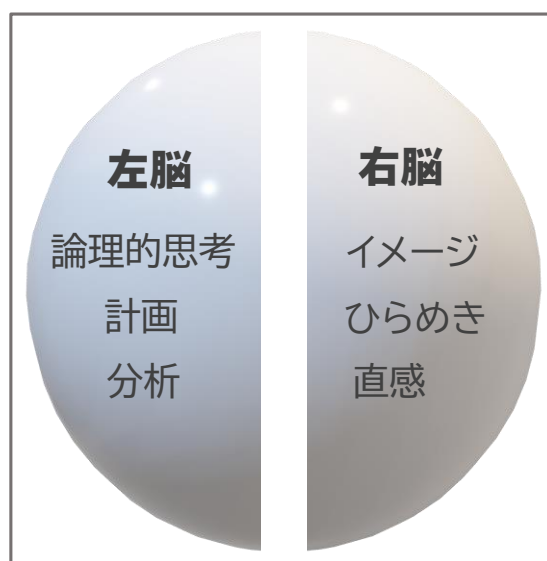
当会では、これまで、部門を超えた皆様方にもご参加いただける講演会を目指して参りました。化学・金属・繊維という素材の世界は、他の分野と少し異なる側面があるからでございます。素材というものは、その素材を目で見ても用途をイメージできるわけではなく、実際のところ、開発された素材が思いもよらぬ所に使われる場合がございます。従いまして、素材の世界の技術者は、素材の世界を追求するだけでなく、素材を使っていただくお客様の世界を広く知ることが重要になります。一方、素材を使っていただくお客様にとりましても、日々進化している多くの素材と素材業界の世界を知ることは大きな強みになるのではないのでしょうか。素材技術の世界は、実験室で素材を発明・開発する者、その素材を大量生産するための技術を考える者、そしてその素材を実際に工場やプラントで大量生産する者により構成されます。これら素材の世界を知ることは、素材に関わっておられない方々にとりましても価値ある財産になるのではないかと思います。

イノベーションを提唱した経済学の巨匠ヨーゼフ・シュンペーターは、1912年に発刊した著書『経済発展の理論』の中で、“新結合”という概念を説きました。すなわち、技術革新というものは、ゼロから生まれるわけではなく、複数の現存製品や生産方法などに新たな発想が加わり、これらが結合することにより生まれます。経済学の巨匠ヨーゼフ・シュンペーターは、このイノベーションの理論を世界に先駆けて提唱しました。幅広い分野の人材を豊富に抱える技術士会は、これを促す潜在力を秘めているのではないかと思います。技術士会が誇る多様で高度な知の融合が新たな発想を生むのではないかと思うからです。当会は、微力ながら、今後も人的交流の場を積極的に設け、新たな発想が生まれるような風土を作って参りたいと思っています。

4. 左脳と右脳について

イノベーションというほどのものではないとしても、何かのひらめきを得るためには、右脳の方が必要になります。よく言われますとおり、左脳は物事をロジカルに組み立てる機能を持ち、右脳は物事を咄嗟にイメージする機能を持っています。人間が一つの仕事をするためには、右脳でひらめき、左脳で実行する必要があります。

右脳でひらめくためには、例えば「何かと何かがつながった」という小さな喜びが必要になります。人間は、絶えず喜びを求める動物であり、「わかった」という小さな喜びは、人間の本能が満たされる一つの瞬間です。当会は、このように、「右脳を刺激する部会」を理想としています。そして、そのような理想に向けて、幹事一同、これからも努めて参ります。参加者の皆様方にも、引き続きご支援をいただければ幸いです。



5. 講演会における当会の願い

当会の講演会では、特に「質疑応答の時間を長く確保する」よう努めています。そして、知らないことは誰でも人目を気にせず聞くことができ、知っていることは誰でも自信をもって話せるような質疑応答を目指しています。当会の質疑応答は、「参加者が質問し、講師が答える」というものではありません。当会の質疑応答は、「参加者のお一人が質問したら、誰が何を答えてもよい」というものでございます。このような「議論が弾む質疑応答」が当会の一つの願いでございます。当会は、講師による貴重なご講演と参加者の皆様方による自由な議論を通じて、どなたかの脳裏に一光のひらめきと喜びが芽生えますことを願っています。

6. 最後に

当会は、皆様方の「自己研鑽のお手伝い」ができればと思っています。そして、皆様方がそれぞれの社会で心ゆくまで能力を発揮され、社会から高い評価を得られますよう祈念しております。今後とも、幹事一同、皆様方のご参加を心よりお待ちしております。
